

虎昭産業

館林にセブン総菜工場

3月操業目標

150人雇用方針

大手コンビニエンスストアのセブンイレブン向けに食品を開発、製造してい



る虎昭産業（東京都北区、内山尚久社長）が、館林市北成島町に工場を新設することが、17日までに分かった。本県への進出は初めて。同町にある工場跡地に、老朽化した栃木県佐野市の工場を全面移転し、来年3月の操業開始を目指す。基幹工場として1日約8万〜9万食の総菜を製造する。地

元から従業員を新たに150人雇用する方針。同社は北関東から首都圏を中心に、セブンイレブンの店舗で販売される総菜や調理パンなど1日計約20万食を栃木（佐野市）、茨城（茨城県守谷市）、北関東（栃木県真岡市）の3工場で製造している。1989年開設の栃木工

場は老朽化に伴い「食品工場として質が下がりがねない」（内山社長）ことから、周辺で移転先を探していた。館林市にあった用地の地形が工場建設に適し、栃木工場から近く従業員の通勤や物流面もスムーズに移行できると判断して進出を決めた。セブンイレブんに納入する同業の工場としては北関東で最大規模になるといふ。

9700平方メートルを取得した。約60億円を投じて新設する。建屋は延べ床面積約7700平方メートル。屋根全面に太陽光発電パネルを設置し稼働時の電力に充てる。製造後約1週間となる総菜の消費期限を1カ月近く延長できる生産技術を導入することで、フードロスの削減と同時に、納入先となる遠方への拡大も可能にする。栃木工場の従業員で希望者は引き続き雇用する。同市近郊で新たに社員の募集を始めており、パート従業員も募り、年明けから研修や準備に着手する。

同社は元々、都内の市場で練り製品や干物などを扱う卸業「虎昭」を家業として営んでいた。売れ残った商品を小分けして販売したのを機に67年、加工部を設立。76年に分離し虎昭産業を創設した。翌年からセブンイレブンが販売するおでんの具材を納入している。

（正田哲雄）

多田善洋市長は同社の進出について「市内には食品の製造拠点多く、産業の集積地として厚みが増す。歓迎したい」とコメントしている。